



報道機関 各位

記者発表資料

令和3年7月26日（月）

問い合わせ先：文化振興課

課長：吉田 茂

担当：小暮、荒川

電話：829-1225

内線：2815

数十年に一度！

さいたま国際芸術祭2020-Art Sightama-で出展された
アガベ（リュウゼツラン）が開花しました！

さいたま国際芸術祭2020の出展作品「Plant Circle - VI 草上の終焉」の一部である、アガベ（リュウゼツラン）がアーティストの川井昭夫氏より寄贈され、市民の森・見沼グリーンセンターにレガシー作品として展示されています。

この寄贈されたアガベ3株のうち、1株が開花しております。数十年の生涯に一度だけ開花する貴重な瞬間を是非ご覧ください。



【展示概要】

場 所：市民の森・見沼グリーンセンター 展示温室近辺

（さいたま市北区見沼2丁目94番地）

時 間：午前8時30分から午後6時まで（4月～9月）

入園料：無料

その他、施設案内については、さいたま市HPよりご確認ください。

（さいたま市HP：<https://www.city.saitama.jp/004/001/003/001/p000088.html>）

【さいたま国際芸術祭2020作品：Plant Circle - VI 草上の終焉】



メインサイト(旧大宮区役所)展示の様子／Photo：丸尾隆一

1970年代から植物を主題とした絵画の制作を始めた川井昭夫は、植物的な（無作為の）表現を追求するアーティストです。さいたま国際芸術祭2020で発表するのは、川井自身がコレクションするアガベ（リュウゼツラン）6株によるインスタレーションです。

砂漠で自生するアガベは、数十年という限られた命の最後の瞬間に一度だけ花を咲かせ、子孫を残して枯れる植物です。世界的なコレクターでもある川井は、200種類ものアガベを収集し育てています。屋上庭園には、数千株もあるなかから大きく成長した複数種のアガベが放射状に配置されています。2019年秋から花芽が伸び始めた1株は2020年8月に花を咲かせました。

【アーティスト：川井 昭夫】

1970年代から植物を主題とした制作を始める。1979年、ジャパンアートフェスティバル優秀賞受賞。以降、支持体の地色に限りなく近づけた色の絵の具を用い、表面に塗り重ねた痕跡だけを残す絵画シリーズを制作し、植物的な表現の在り様を追求する。1992-2002年にかけては、北陸の過疎化する村で「表現と場の関係を問い直す」プロジェクト「野積」を企画し、廃屋でのインスタレーションや、植物そのものを表現媒体とした作品を探求。2000年代にはアガベ（リュウゼツラン属）の収集を開始、世界的なコレクターとなり、2017年にはアガベによるインスタレーション作品を発表する。

主な展覧会に「死なない命」金沢21世紀美術館（2017）、「みえないように・川井昭夫」美濃加茂市民ミュージアム（岐阜、2010）、「みどりのちから 日本近代絵画にみる植物の表現」群馬県立館林美術館（群馬、2003）、「現代の絵画：東欧と日本」国立国際美術館（大阪、1981）など。<https://kawaiakio.com>